



武田 智文	
はかりしれないのち	1
葦原 理江	
彼岸の知らせ	11
志慶眞 文雄	
なぜ、仏教を聞かないといけないのか?	21
深川 宣暢	
「お彼岸―秋―」とは	31

本文中、『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』は『註釈版聖典』と略記しております。

表紙絵・挿絵／土田菜摘

はかりしれないのち

武田 智文

●限りなく

舍利弗、かの仏の光明無量にして、十方の国を照らすに障礙するところなし。このゆゑに号して阿弥陀とす。また舍利弗、かの仏の壽命およびその人民も無量無辺阿僧祇劫なり。ゆゑに阿弥陀と名づく。舍利弗、阿弥陀仏は、成仏よりこのかたいまに十劫なり。

(『註釈版聖典』一三三〜一三四頁)

これは『仏説阿弥陀經』のちょうど中ごろに出てまいります、お經のご文であります。

お釈迦さまがインドの舎衛国の祇園精舎というところで、千二百五十人のお弟子に教えを説かれていました。お釈迦さまは、長老のお弟子の舍利弗さまに、

「その仏さまの光明には限りがないのです。さらにすべての国々を照らして、何ものにもさまたげられることがないのです。それで、阿弥陀と申しあげるのはです。また、仏さまの寿命も、その仏の国の人びとの寿命も、ともにはかりしれなく、限りなく長いのです。それゆえに阿弥陀と名づけるのです。阿弥陀さまは、仏となられてから、

今日までに、すでに十劫という、
とても長い時間が過ぎているの
ですよ」

とお説きになっておられます。

●数え切れない数

ずいぶん前になりますが、お寺の掲示板に次のような法語を載せさせていただきました。





無量寿
むりょうじう

いのちとは

すなわち

限らない願いの世界

(真宗教団連合『法語カレンダー

(一九九五年)』七月 平野恵子)

それをご覧になった、あるご門徒
さんが、お寺に新聞の切り抜きのコ
ピーを持ってこられました。

「ご任職さん、この数字の表を見る

と、それぞれの桁^{けた}の読み方にゴウガシャとかナユタとかムリヨウとかた
くさんお経のご文が書かれていますなあ」

とおっしゃいました。拝見しますと、『星の数より多い数字をどうやって
思いついたのだろう』という題名の「記事」でした。一番左に「1」があ
り右に「0」が七十五個つらなつた数字の表で、各桁の下に、十・百・
千・と桁の読み方が書いてありました。

私たちが普段見かけるのは、一の桁から九桁目で、一億、あるいは、
十三桁目で一兆ぐらいでしょうか。これが十六桁目で千兆となり、さら
にその上は

「京」^{ケイ}「垓」^{ガイ}「杼」^{ジョ}「穰」^{ジョウ}「溝」^{コウ}「澗」^{カン}「正」^{セイ}「載」^{サイ}「極」^{ゴク}